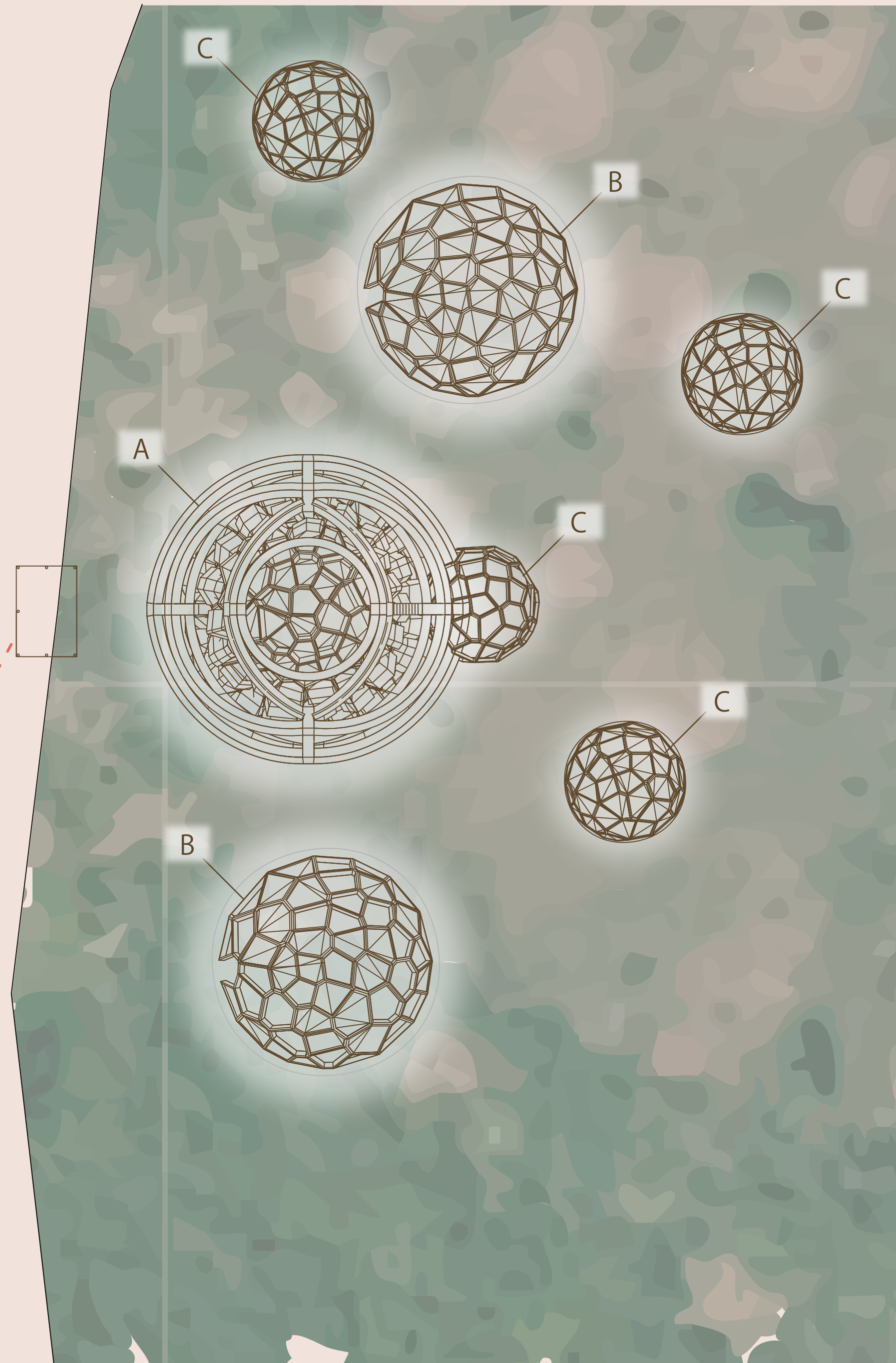


# 04 配置図

本施設は、船で訪れるため、対岸の馬越地域側に配置する。  
中洲は自然の力によって形成されているため、中央に行くにつれ、人の手が入らないように配置する。  
本計画では3種類のドームを使用する。  
ドームの大きさによって人間と自然のグラデーションをつくり、互いの距離感を保つ。

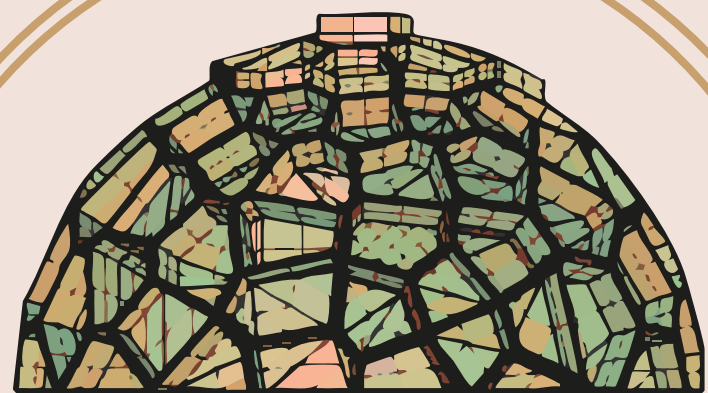
馬越島の中心部は水田として使われていた歴史があり、植物が根を張りにくい、耕作放棄地となっている。  
そこに本建築を計画し、島内に自然を拡張させる。

人が使わないところは木製。  
建築を使って植物が拡大していく。  
後に建築が朽ちる。  
人がいる拠点は鉄だから朽ちない。  
人々は島の中に自然が広がっていくのを見ることができる。

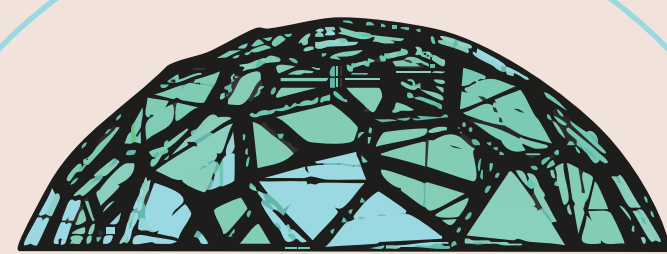


配置図 1:500

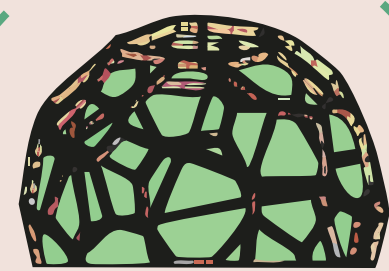
A 人が拠点とする建築



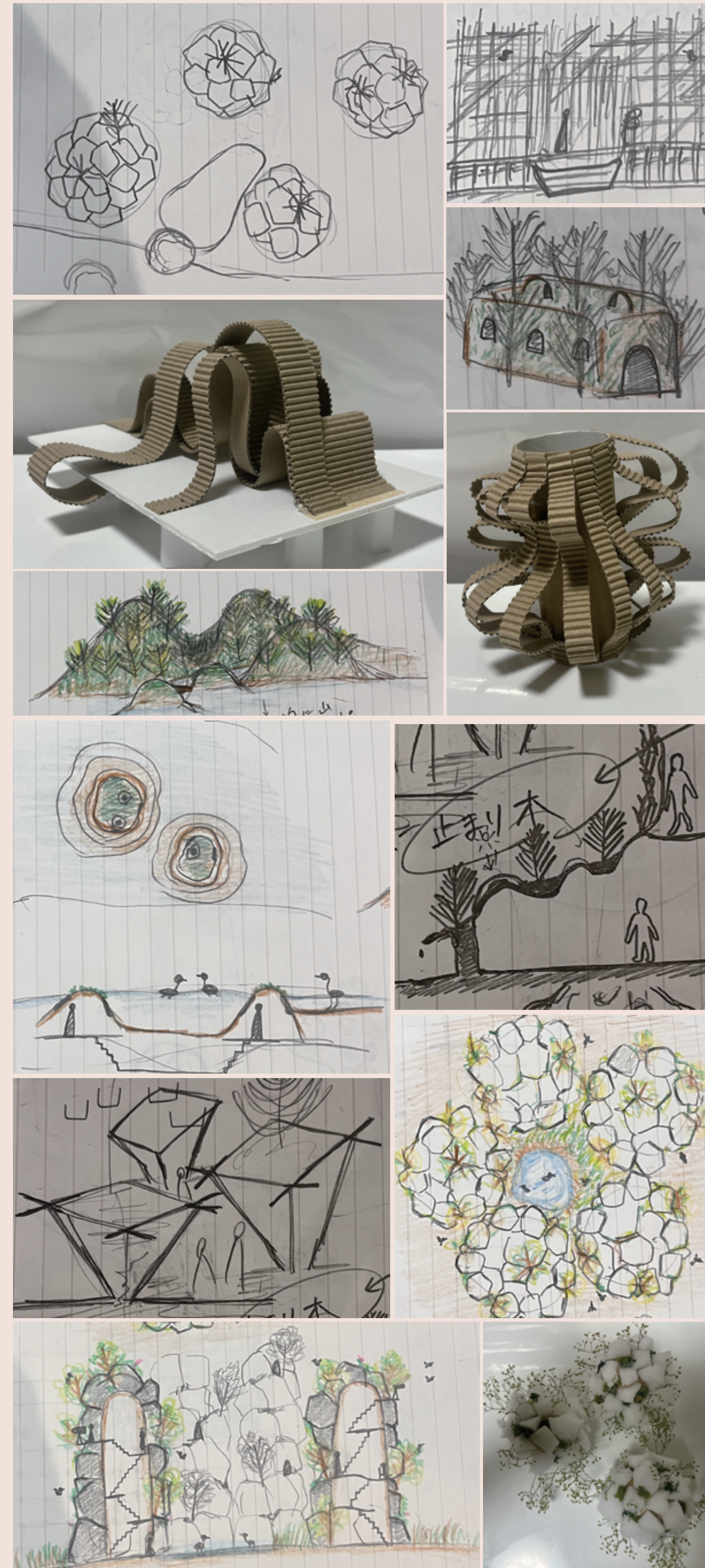
B 中間の建築



C 鳥だけが使える建築



# 05 デザイン



木の根っこのすき



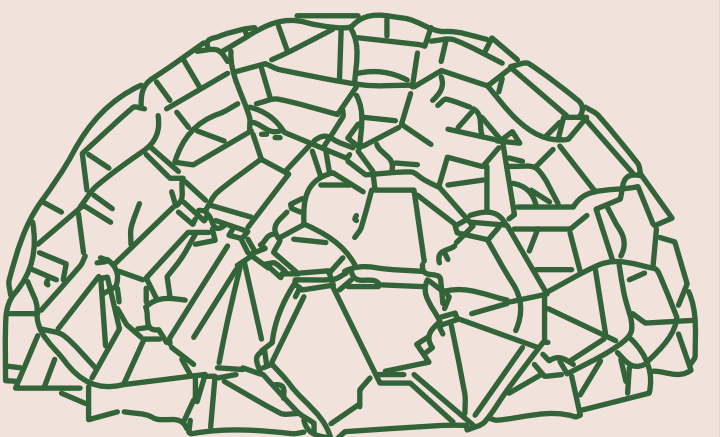
凸凹のデザイン



ぐるぐる絡み合っていく



自然界のパターン





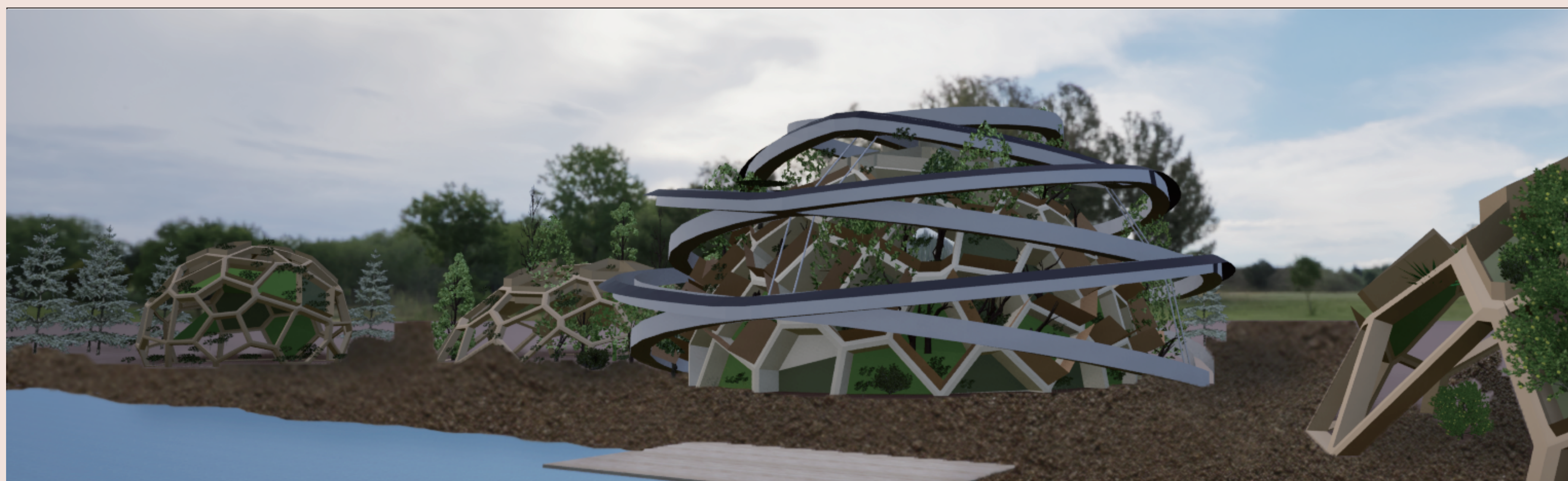
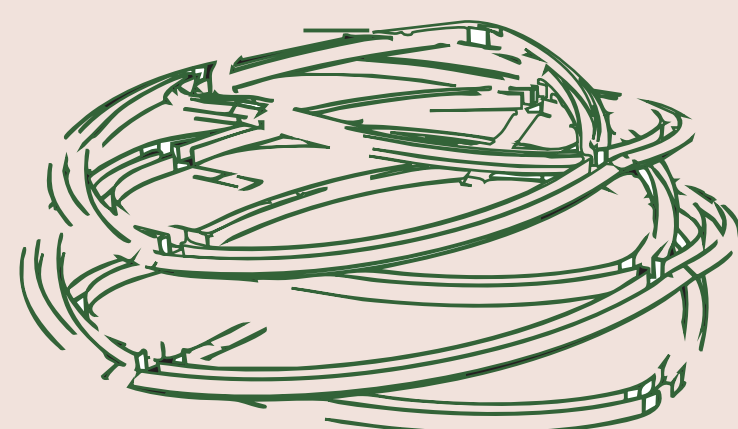
き間から植物が生えたら・・・？



均一にしてみる

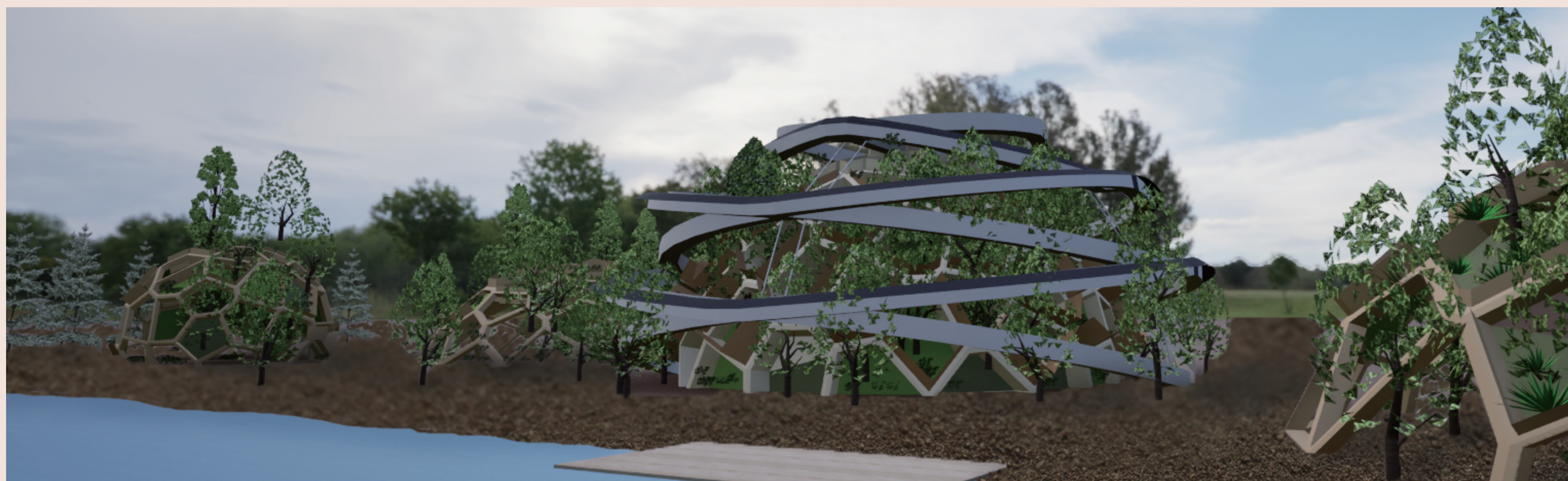


自然の中を歩く回廊



1 年後

竣工時に植えた植物が育つ  
鳥が集まり、人が集まる



15 年後

鳥たちが落とした種が芽吹く  
植物が成長し、建築が緑に包まれていく

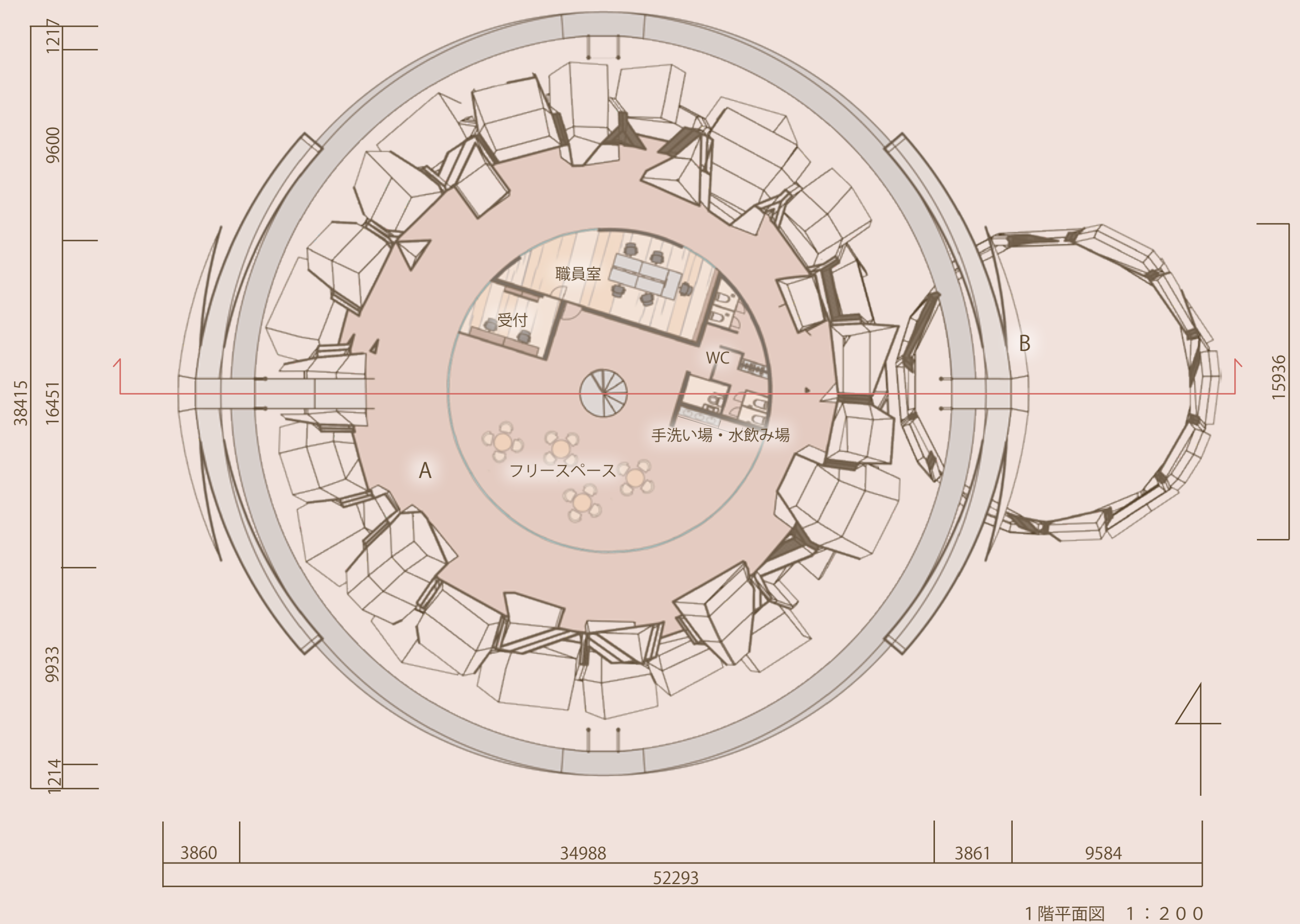
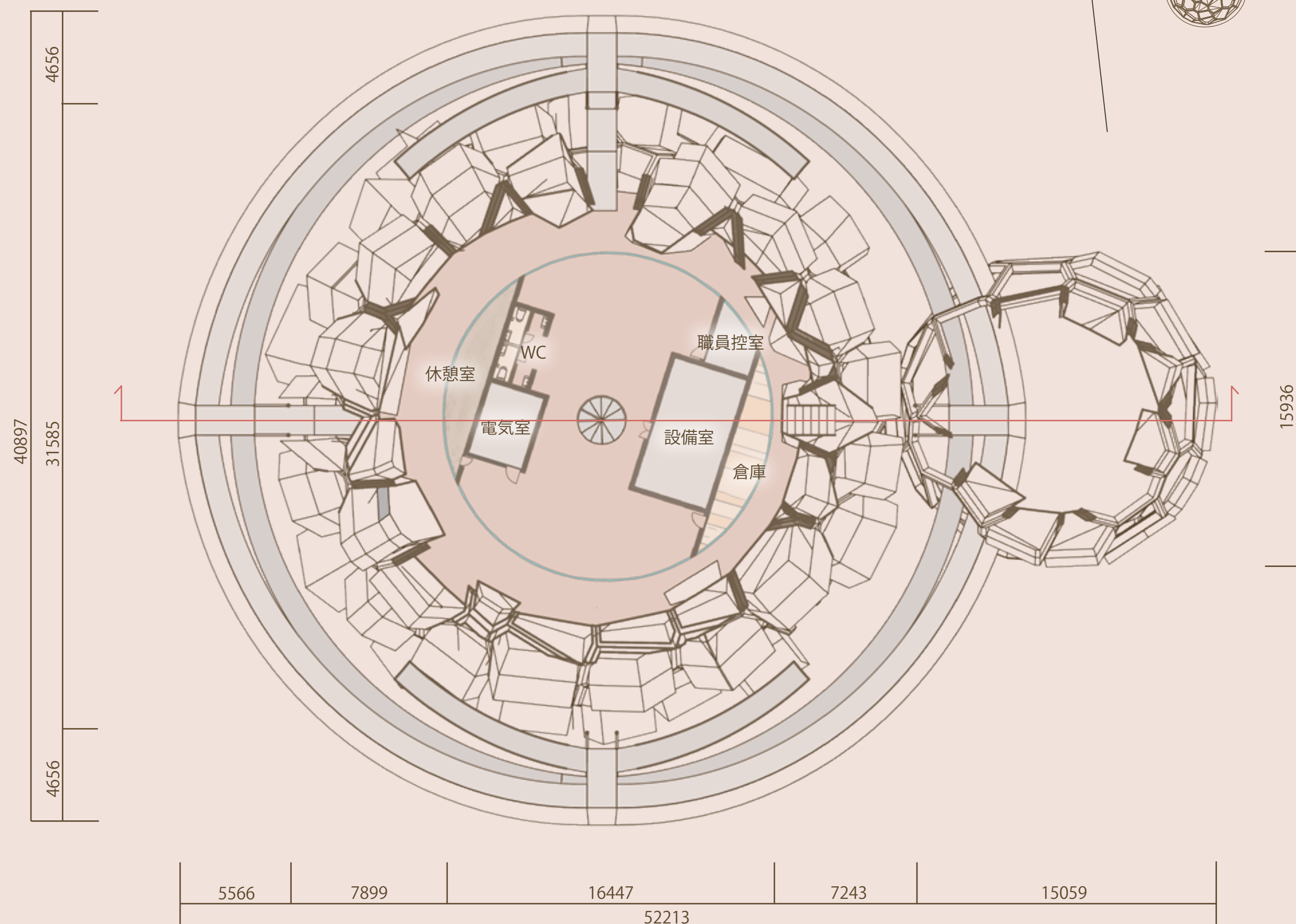


50 年後

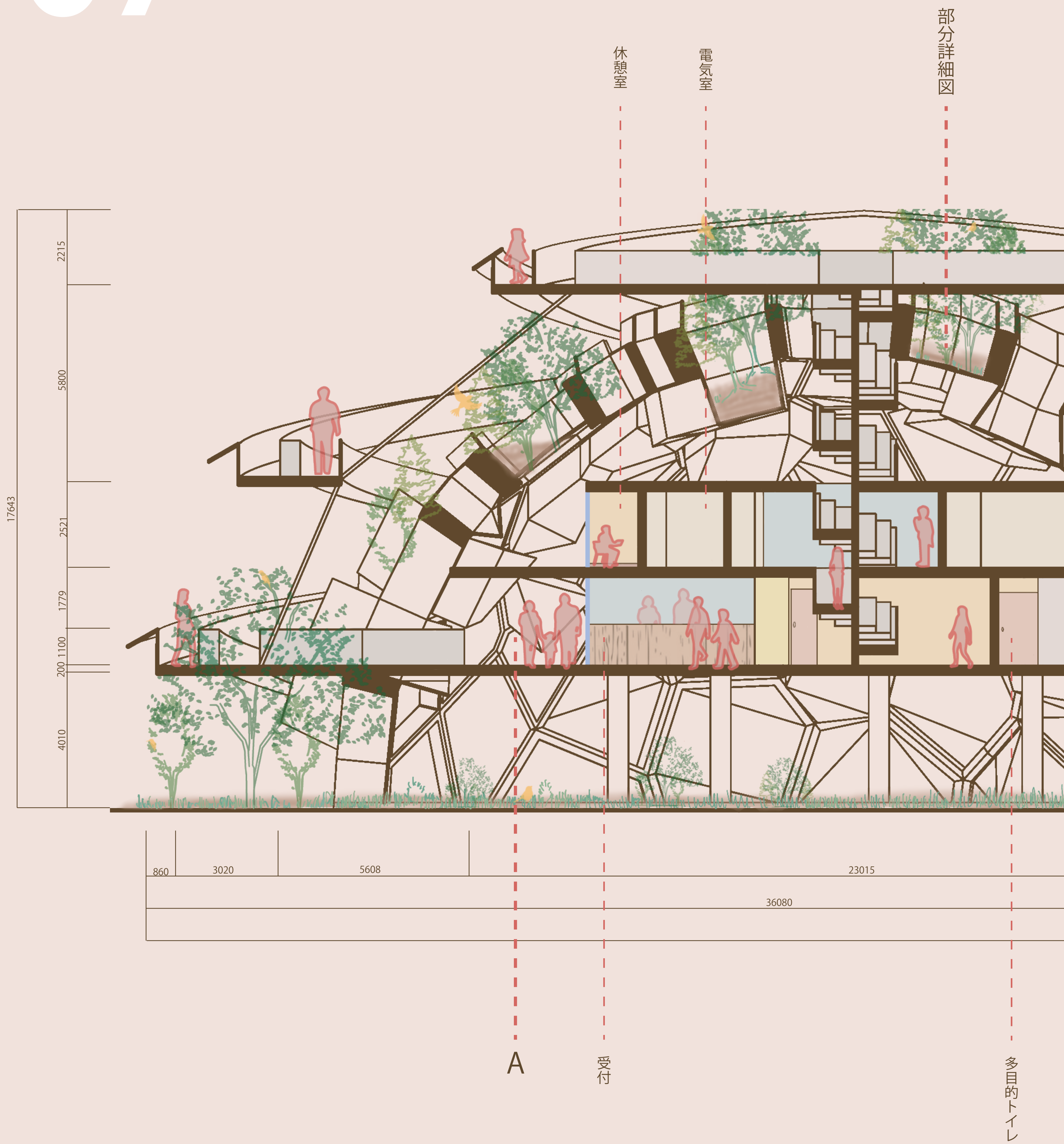
植物が建築を覆う  
建築と植物の境界が混ざる



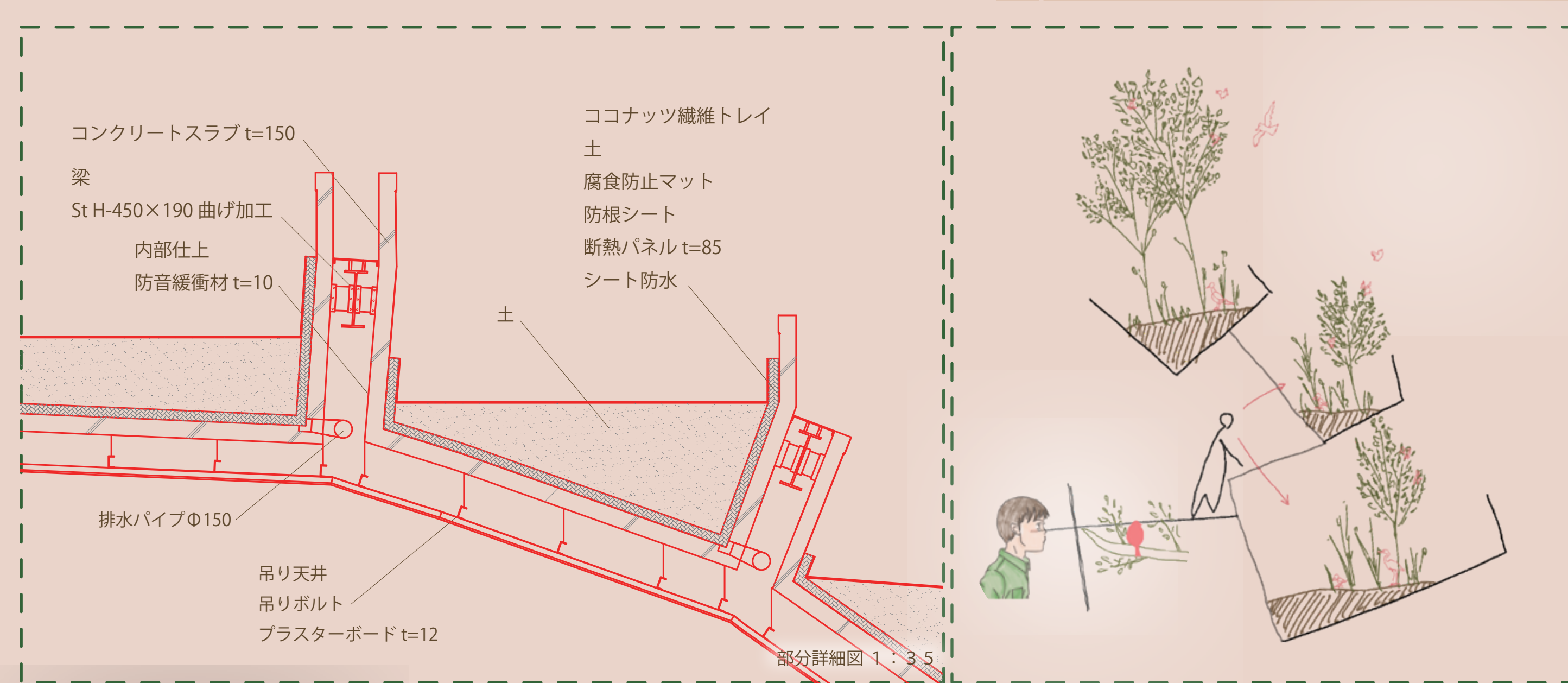
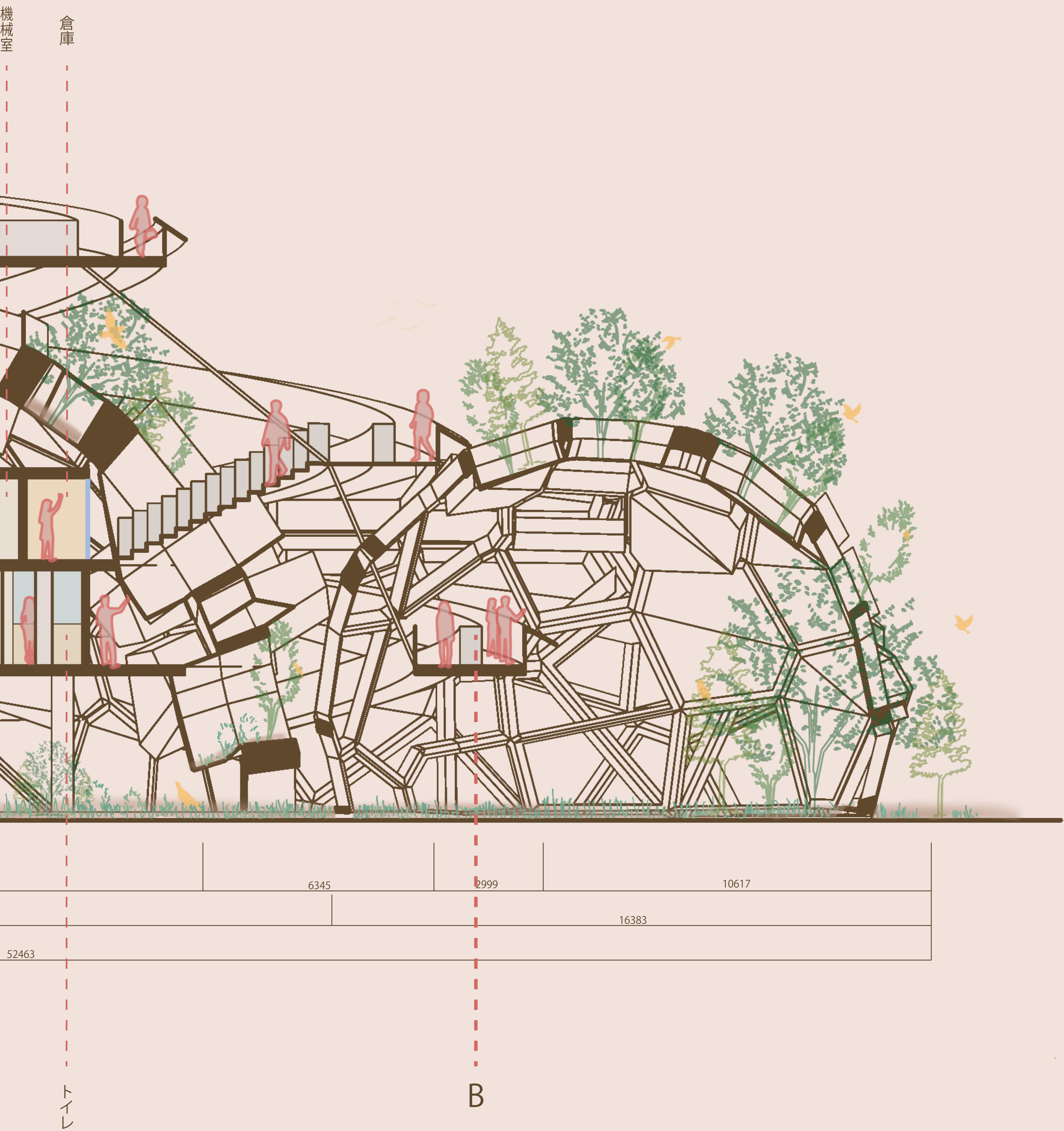
# 06 平面計画



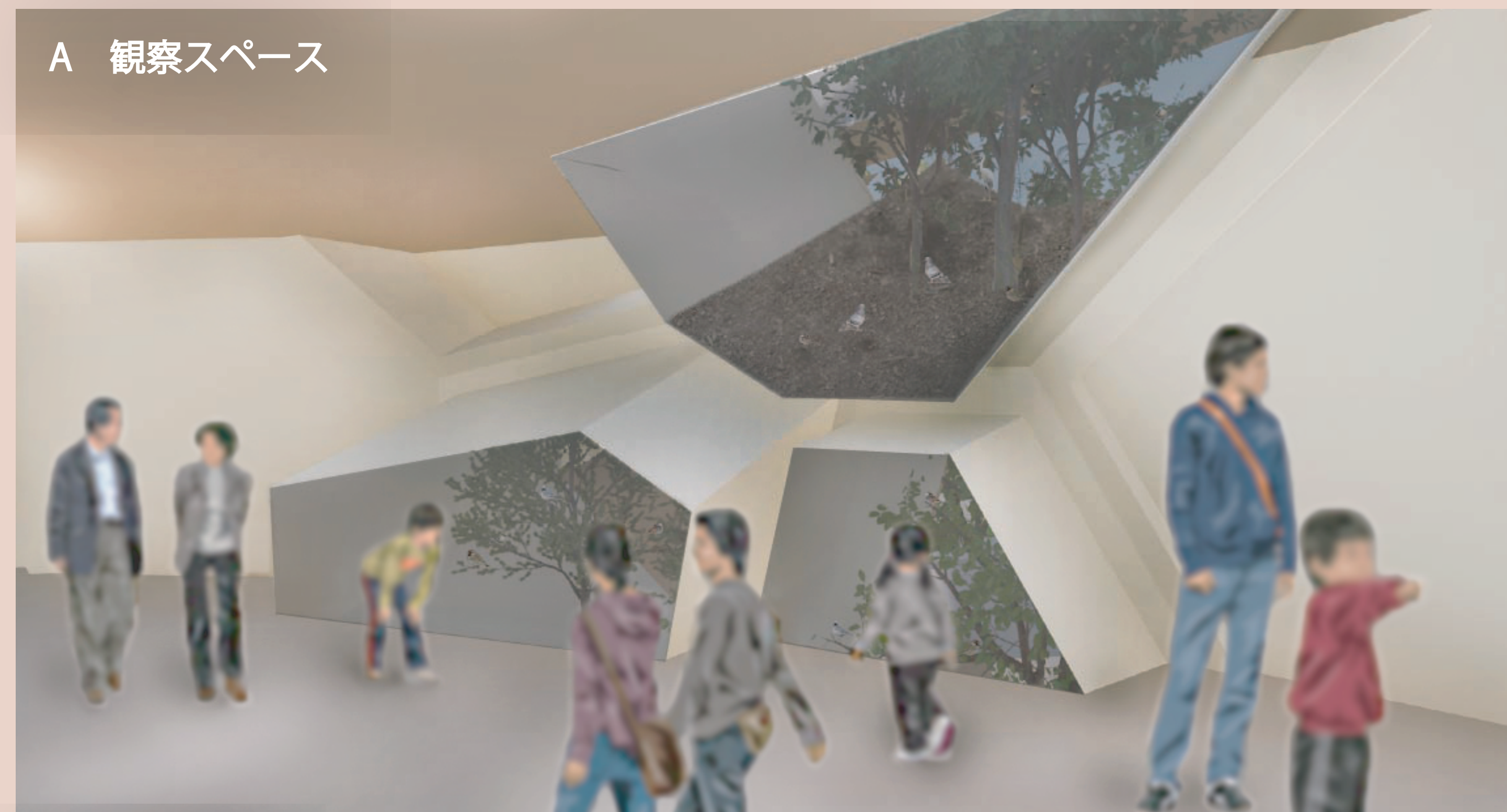
# 07 断面計画







## A 観察スペース



## B 鳥ゾーン

